

山行NO NO. 1743
日時 2017. 06. 23 (金) ~ 24日 (土)
山域 八ッ・硫黄岳 (2742m)・横岳 (2829m)
コース 1日目=下土狩4:00—須玉IC—清里—本沢温泉・下駐車場7:09—軽トラック乗車—上の駐車場7:35—本沢温泉8:45—夏沢峠9:58—硫黄岳10:58—硫黄岳山荘—横岳12:00~13:13—硫黄岳山荘13:35—硫黄岳13:58—夏沢峠—露天風呂15:27~44—本沢温泉16:00 (泊)
標高差 上り 下の駐車場約1600m~横岳2829m=約1229m
下り “
参加者 後藤、峰田、加藤、合谷

ウルップ草・九十九草の稜線

梅雨の晴れ間を狙って出掛けた。以前から行きたかった本沢温泉に向かう。

本沢温泉は、登山を始めて50年以上経つが初めて。

天気がハッキリしなかった。当初、土曜日登山だったが、金曜に上り、本沢温泉泊とした。

本沢温泉入り口の下駐車場には3Hで着いた。天気は清々しい晴天。早くも春ゼミが五月蠅い。

林道を5分歩くと、下から軽トラックが上って来た。女子が声を掛けると「乗って行く??!!」の返事。遠慮なく乗せて頂く。

ドライバーは、埼玉から温泉にやって来た、34歳のA沢くん。中々の好青年。上の駐車場まで、軽トラは、唸り音で頑張ってくれた。これで約1H助かった。

気持ち良い道を進む。小屋手前には、九輪草群落、箴葉草（おさばぐさ）が咲いていた。



A沢くん

彼は一級造園技能士だった。現在は独身。年上の彼女がいるそうだ。明日仕事があるので、宿泊せず日帰りとのこと。イッパイやりたかったが残念。感謝の気持ちで、温泉代をカンパした。

A沢くんと小屋で別れ、夏沢峠に向かう。登山者が少ないのか、とても上り易い道が続く。途中、標高



九輪草



箴葉草（おさばぐさ）



本沢温泉

2150m、日本最高地・露天風呂「雲上の湯」を俯瞰。小一時間で夏沢峠。小屋は閉まっていた。硫黄岳に向かう。出だしは急だった。

森林限界に達すると、西風が強く寒かった。ジャンパーを羽織った。単独の若い女性が抜いて行った。

見事なケルンが点在していた。これだけのモノを作るには、相当労力が掛かっただろう。



夏沢小屋



見事なケルン、バックは天狗岳

硫黄岳頂上は、東京の集団登山の高校生で賑やかだった。賑やかを通り越して、五月蠅かった。

好天も相まって、余程、楽しかったのだろう。

教師と思われる方が、「煩くて申し訳ないですね」と言った。

硫黄山荘を通過し横岳の上り。御山の豌豆（おやまのえんどう）が沢山出て来た。

鮮やかな濃い青紫。群青色と呼んでも良いだろうか。



平らな硫黄岳



御山の豌豆

頂上直下の鎖場を上る。

右下の崖に九十九草（つくもぐさ）が咲いていた。まだ、小ぶりで時期は早かった。でも、今回も見れて良かった。頂上でやや遅い昼食。腹が減った。畑のキュウリが美味かった。枝豆も美味かった。夏は、これだから嬉しい。何処かのオジサンと会話。

頂上の向こうに良いウルップ草があるという。九十九草は、既に「遅い」というが正論だろうか。

オジサンは、以前スマホで撮った「正しい」九十九草を見せてくれた。

食事が終わり、南のコルに行く。ウルップ草がキレイだった。ただ、まだ小粒。盛期はもう少し先。

横岳に上り返して下山。

硫黄岳の上りは、「新呼吸法」でスイスイ。



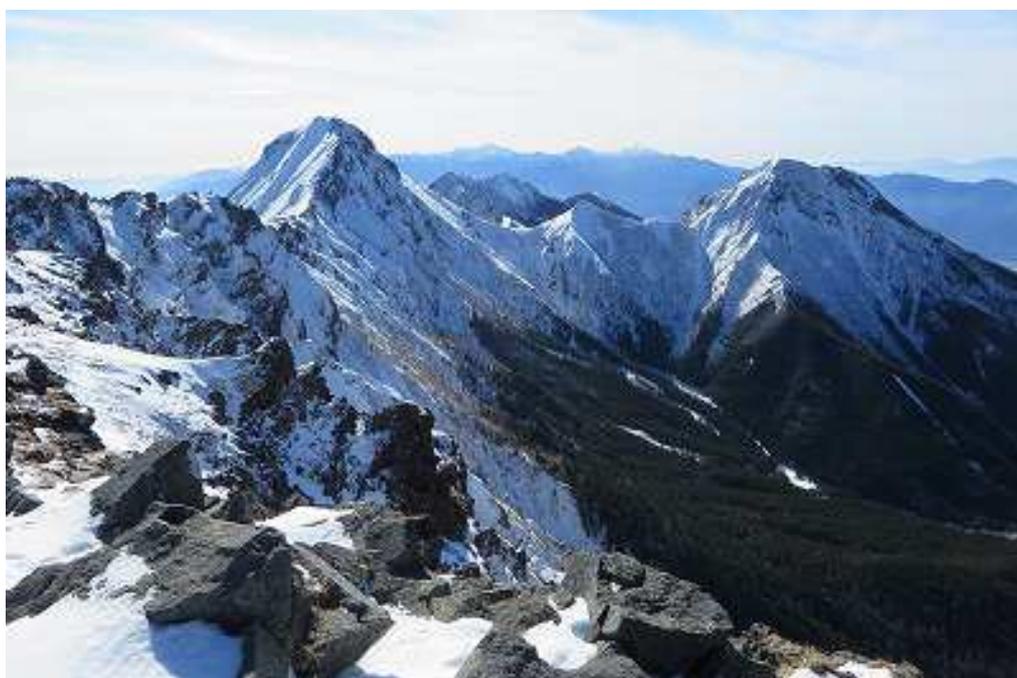
ウルップ草



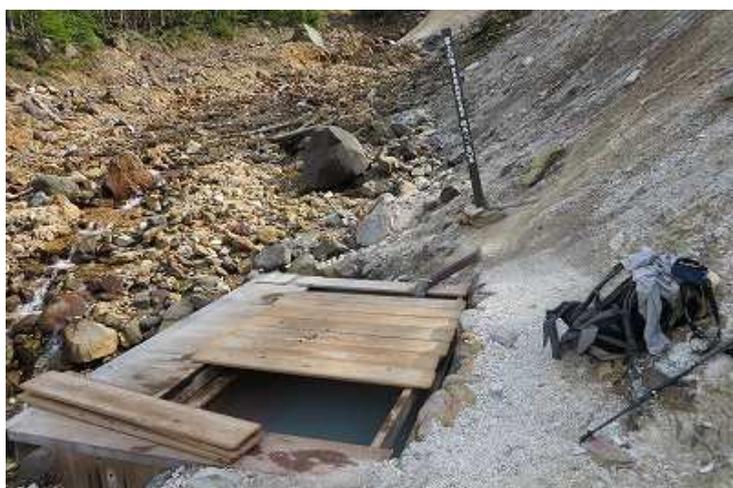
まだ、ゾロゾロ上って来る。最近は平日でも登山者が多い。これも時代か。
夏沢峠でツアー登山と会った。総勢30名ほど。8割は女性。若い方も多かった。
露天風呂上まで下って来た。
オバサマが三名入っていた。我々が上から眺めているとは知らない様子。でも、遠目で問題はない。
我が三名は小屋に下ったが、私は露天に入った。
オバサマ方は既に出ていた。湯加減は、熱からず温からずでサイコー。ただ、後ろが崖で、落石が起き
そうで、呑気に入っていられない。落石止めの柵が欲しいところ。
イイ気分で小屋に戻り、先ほどのオバサマ方と庭でビア。夕食の五時半までやった。



赤岳と阿弥陀岳



2017年1月



日本最高地・露天風呂



庭で交流



夕食



小屋は、個室にした。相部屋は、暗く閉塞感で不快。

内風呂は、夕方は熱かったが、朝は、蓋を開けてくれてあったので丁度良かった。

泊まらない場合は、露天＝600－、内風呂＝800－。

もっとも、露天は無断で入ってもチェックできない。食事はまあまあ。味噌汁は美味かった。

ビヤは、350ml＝500－、日本酒＝500－。数種類から選ばせてくれる。濁り酒＝デキャンダーで2000－。

2日目は、遊びながら帰る。清里の「伊予」ビヤをやり、ピアノを弾いた。最後に、「たかねの湯」に入る。偶然、富士のS夫妻にバッタリ。六名全員、先日の熊野古道参加者だった。昼食を食べ昼寝して分かれた。

(了)

